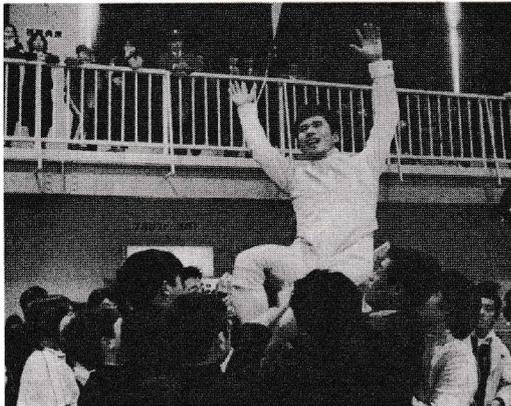


創立50周年記念誌

青森県フェンシング協会
50年の歩み

青森県フェンシング協会

第29回 全日本フェンシング選手権大会
念願達成 日本一バンザイ



(3) 第158号 広報 いまべつ 昭和52年11月15日



少年女子で健闘した藤巻選手

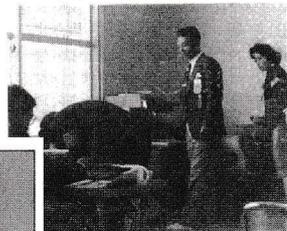


よろこぞフェンシングの町へ



チビっ子たちの郡土芸能・花馬車と婦人会の、麗しおどりの披露である国体も最高潮

男子初の全国制覇
女子も堂々三位入賞



役員の手当集約に汗を流す東方さんです



明れの全国優勝と三位入賞をばたした今高フェンシング部

「勢カ」二十四年



左から岡地孝子選手(今高)、相内菜穂子選手(二輪)、沢田まき監督(長名)、小栗ひとみ選手(主将・今高)

2001年(第158)10月15日 大朝日

でかした!! 今別男児 2冠達成

匡勝 実力見せつけるフルーレ
少年男子

努力結実 3剣士、喜び爆発

本県V フェンシング少年男子フルーレ
今別、高校総体と2冠

国体優勝
インターハイ優勝



おめでとう!
 全国高校総体
 フェンシング男子団体優勝



ごあいさつ

青森県フェンシング協会 会長 菊池 憲太郎

この度、青森県フェンシング協会創立50周年記念誌を発刊するに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

私は、半世紀という節目となったこの年に、皆様から御推挙いただき、会長に就任させていただきました。当協会を設立されました故丹内正一先生をはじめ、歴代の会長諸氏並びに会員の皆様の御尽力に深く敬意を表しますとともに、次の50年に向け決意を新たにいたしましたところであります。

昭和37年にフェンシングというスポーツが本県に芽生え、協会が設立されて以来、本県からは多くの優秀な選手や指導者が輩出されております。

聞くところによりますと、「学校の廊下でも練習ができ、県内にはやっているところがなく、すぐに強化が図られるだろう。」・・・といった理由から、当時今別高校の校長だった丹内先生がフェンシングを取り入れたとのことでありますが、手探りの状態からのスタートであったにもかかわらず、少数精鋭ともいうべく、本県からこの50年の間に日本を代表する選手や監督が多数輩出されているということに、改めて大変誇りに思うものであります。

この10年を振り返りますと、少子化による競技人口の減少や強化策等、幾つかの課題を抱えてきておりますが、各支部が育成に取り組んでいるジュニア世代から日本代表選手が生まれるという将来に期待が持てる話題もございました。

平成23年8月には、東日本大震災の傷跡が生々しく残る中で、協会の皆様の御協力のもと、むつ市において全国高等学校総合体育大会フェンシング競技を開催いたしております。この大会では「がんばろう！東北」をスローガンに、本県から全国に「東北の元気」を発信するなど、多くの関係者の方々に喜んでいただいた大会とすることができました。高校体育連盟をはじめ、御尽力を賜りました関係各位には、改めて感謝申し上げます次第であります。

さて、次の50年に目を向けますと、東京オリンピックが平成32年（2020年）に開催されることが決まり、また、平成37年（2025年）には第80回となる国民体育大会が本県で開催される予定となっております。協会といたしましては、これまでの経験を活かしつつ、これらの大会に向け、選手強化や組織力強化に一丸となって取り組み、本県フェンシングの名をこれまで以上に全国に発信できるよう頑張っていきたいと思っております。

最後に、この50年という輝かしい歴史を基礎とし、当協会のさらなる飛躍を祈念するとともに、協会員各位、そして東北連盟各県関係者の皆様の御健勝と御多幸を御祈念申し上げます、また、併せまして、皆様から御指導、御尽力賜りますことをお願いいたしながら、記念誌発刊に寄せることばといたします。



「記念誌発刊に寄せて」

青森県フェンシング協会 名誉会長 菊池 健治

青森県フェンシング協会創立50周年にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

私は、昭和63年に会長として就任して以来、当協会の歴史の約半分をフェンシング協会関係者の皆様と共に歩んで参りました。

50年と一口に申しましても、その中には凝縮された数々のエピソードがあります。

故丹内正一先生、故赤坂龍之介先生の元集った皆様が、今別町に産声を上げたフェンシングという競技を通し、そのお二方の精神を脈々と引き継ぎ、現在に至っているということについて、私は常々、賞賛されるべきものであると感じております。

昭和52年に本県で開催された青森国体で「あすなる戦士」として戦った方々も、ちょうど定年を迎えられる年齢になり、その皆さんが指導した方たちが、また、選手・指導者として引き継ぎ、今ではその次の世代、平成に入ってから始めたジュニアの強化選手たちが、成年の現役選手や指導者として頑張っております。

私は、県議会議員を永年務めてきた関係で、フェンシング協会のほかにも様々な協会に関わらせていただいておりますが、当フェンシング協会の活動、言い換えれば、丹内先生、赤坂先生の意志を50年間引き継いでいるという協会は、なかなか無いと思っております。私もそのすばらしい協会の会長として携わり、協会の仲間として歴史の半分を皆様と共に歩んできたことを誇りに思っておりますし、今後もその意志を継続していただきたいと強く思うところであります。

私が会長職を務めていた間には、ジュニア選手の強化が始まり、その子供たちが高校生となってインターハイ、国体の二冠を達成するなどの輝かしい成果を得ることを経験いたしました。

また、平成23年度に開催いたしました「北東北総体」におきましては、東北各地に東日本大震災の傷跡が残る中、「がんばろう東北」をスローガンとして、関係各位のご尽力により成功裏に実施できましたことは、高体連を抱える協会長としても感慨深いものがございました。

私は、インターハイの開催を機に、会長職としては退いた訳ではありますが、これからも皆と共に新たな歴史を築いていきたいと思うところであります。

おわりに、この50年を節目として、次の50年に向かって更なる飛躍をいたしますことを祈念し、また、皆様のご健勝ご多幸を祈念し、50周年に寄せることばといたします。



祝 辞

公益財団法人 青森県体育協会 会長 蝦名 武

この度、青森県フェンシング協会が創立50周年という半世紀にわたる大きな節目を迎えられましたことは、誠に喜ばしく心からお祝い申し上げます。

本県のフェンシング競技は、今別高校昼間部定時制が全日制高校に移行した昭和37年に、生徒達にやる気と自信をもたせるために、全校6学級200人そこそこの小規模校で施設や用具がなくても練習ができ、グラウンドや体育館などの広いスペースを必要とせず、本県にない種目をと検討していたところ、たまたま秋田県において行われていたフェンシング競技を見て取り入れたのが始まりであると聞き及んでおります。

そして、今別高校職員が中心となって県フェンシング協会を発足させ、県体育協会に加盟されて以来、50年の長きにわたり、本県におけるフェンシング競技の普及・振興に努められ、輝かしい歴史と伝統を築き上げられました。

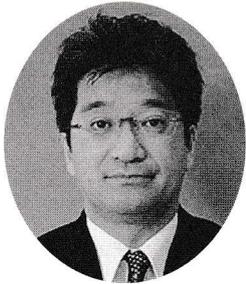
特に、貴協会発足後、短期間での開催となった昭和52年の「あすなる国体」では、これまでの国体フェンシング競技において一度も得点を挙げたことがなかったにもかかわらず、参加した全種目で入賞を果たし、競技総合成績は第三位となり、本県の天皇杯獲得の大きな原動力となりました。

その後も、長年にわたり、ひたむきに情熱を傾けてこられた歴代会長をはじめ、多くの諸先達の皆様方や、指導者など関係各位の並々ならぬご努力により、多くの全国チャンピオンを誕生させ、東北大会や全国大会で活躍する優秀な選手や指導者を多数輩出されましたことに対しまして深甚より敬意を表するものであります。

青森県体育協会としましても、本県における県民スポーツの統一組織として、本県スポーツの振興並びに競技力の向上に取り組んでいくとともに、来たる2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会で活躍する選手を輩出できるよう、スポーツ環境づくりにも努めて参る所存であります。

さらには、あすなる国体以来2回目の開催となる、2025年第80回国民体育大会本大会の青森県開催の招致要望書を青森県に対して提出し、現在、国体検討懇話会が実施され、国体開催の方向性について検討されている最中であります。今後も加盟団体及びスポーツに携わるすべての方々のご理解とご協力を得ながら、青森らしい国体の開催を実現させたいものと考えておりますことから、貴協会には従来にも増して力強いご支援とご協力をお願い申し上げます。

終わりに、このたびの創立50周年を契機に、貴協会がさらなる飛躍・発展を遂げられますとともに、会員の皆様方の一層の御活躍を御祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。



青森県フェンシング協会50周年 記念誌によせて

東北フェンシング連盟 会長 秋 保 茂 樹

青森県フェンシング協会の皆様、創立50周年おめでとうございます。

多くの優秀な選手、多くの稀有な指導者を輩出し、東北のフェンシングをご牽引くださっている事に先ずもって衷心より感謝申し上げます。大会等で、しもきた克雪ドームやスポカルイン黒石等々いろいろな会場にお邪魔させて頂き、暖かく迎えて頂いております。この場をお借りし御礼申し上げます。

青森県には陸奥湾を囲むようにフェンシングが盛んな町があります。そこにおられる皆様が文字通り輪を作り、協会を支えておられる事に強い憧憬を感じます。東北フェンシング連盟の会議に置いても常にフェアでオープンなご発言を頂いています。青森県フェンシング協会の気風と感じておるところです。

若輩の私には懐かしいお話をご披露するという事はかないません。諸先輩方のお話を伺いたいと存じます。北京オリンピックの銀メダル以来、日本のフェンシング界が大きな進化の時期を迎えておりますことは、私などが申すまでもなくフェンシングを愛する人々全てが感じているところです。その中で東北のフェンシングもオリンピックメダリストはじめ多くの国際的な選手を輩出しております。青森県のフェンサーの皆様引き続き東北のフェンシングの先頭を駆けていただくことお願いし、青森県フェンシング協会のますますのご隆盛を祈念し、よせるご挨拶とさせていただきます。



兄と弟のように

秋田県フェンシング協会 副会長 折原 順悦

青森県フェンシング協会創立50周年、おめでとうございます。長い歴史と伝統に育まれた貴協会の栄光と繁栄に深く敬意を表します。

日本フェンシング協会や東北連盟の中で、貴協会と秋田県フェンシング協会とは、謂わば「兄弟」のような間柄だと常々感じておりました。失礼かも知れませんが、2008年に50周年を迎えている秋田県協会の方が「兄」と言えると思います。兄弟と感じるのは、両協会の方にそれだけ多くの交流があったからでしょう。貴県の故赤坂龍之介先生らと本県の故佐々木信勝先生・故鈴木英男先生らとの間で始まった交流は、貴県の宮本義文先生らと本県の成田政志先生や小生などとの第二世代の関係へと引き継がれ、そして、第三・第四世代でも活発なやりとりが続いております。

特に、聖霊高校の監督であった小生にとって思い出されるのは、1970年代中盤以降の今別高校との交流です。インターハイや東北大会で何度も対戦しましたが、鮮明に覚えているのは1979（昭和54）年のインターハイ団体決勝で今別高校に敗れたことです。またその2年前、インターハイ団体優勝に続いての制覇を狙って臨んだ青森国体は、虫垂炎で入院したため監督として参加できず、悔しい思いをしました。

それら試合での思い出もさることながら、練習試合で行き来したことも印象に残っています。特に今別高校の生徒会館での冬の合宿は忘れられません。教員やコーチの皆さんとの夜のミーティングでは、ストーブを囲み、炙った「かんかい」を肴にしてコップ酒を飲み交わしました。宮本先生・一戸先生・蝦名先生・阿部さん・澤田さん・戸島さん・大馬さんらだったと思います。フェンシングも強かったのですが、こちらも相当なものでした。下戸の澤田さんは、（冬ではなかったかも知れませんが）朝に獲れたばかりの烏賊を刺身にして持ってきてくださったことにも感動していました。さらに、黒石高校との交流も印象深いものがありました。

公私ともに親しい交流を続けてきた青森・秋田両県のフェンシング協会。今後とも切磋琢磨しつつ、雪国から粘り強い剣士たちを輩出したいものです。貴県フェンシング協会の益々の発展を祈念いたします。



祝50周年青森県協会に感謝して

岩手県フェンシング協会 副会長 越 田 早 苗

青森県フェンシング協会50周年おめでとうございます。私が初めて出場した東北選手権大会は高校二年生の秋今別町で開催された時でした。電車を乗り継いでの遠出が嬉しくて降り立った今別駅、好天で青く輝いていた空と海の色、宿舎は高台のお寺で本堂の続き部屋はチョッと怖くもあり緊張しながら泊ったことを憶えています。今思うとあの時の青森県協会は設立まだ五年目くらいだったのですね。試合の運営や準備はさぞかし大変だったことでしょう。今では如何なる大会も、むつ市で黒石市で青森市でと難なくこなされ、戦績も全国大会での上位入賞は当然のような常連県になりました。その青森県協会の三人の方について隣県岩手から感謝とともに語らせていただきます。

まずは東北に女性指導者が少ない時代から尽力された澤田圭子先生。青森県選手団ベンチに先生の姿をお見かけすると「頑張っていますね先生」と嬉しく、これからも続けてくださるよう願っています。次は阿部義治氏です。昭和61年岩手県協会が騒動を起こした際に阿部さんは東北フェンシング連盟事務局長として非の打ちどころない速やかな対応をしてくださいました。それは私達にとって頼もしく有難い存在であり、裁判では証人として出廷もしていただきました。あの時から「阿部さんのような方が首長に相応しい」と思っていました。それが昨年今別町長に就任されて現実となり正に予想は的中。「人を見る目は確かなのよ!」と自慢したい程とても嬉しく思っています。そして最後はやはり故赤坂龍之介先生です。先の阿部義治氏と同じ時期に東北連盟理事長だった赤坂先生は当時お忙しい中を事態収拾のため岩手県体育協会、日本フェンシング協会等に東奔西走してくださいました。また大会や会議、パーティ等では教え子のように優しく接して下さったことや青森県協会の活躍発展を喜んでお話を下さった事など懐かしく思い出されます。

50周年をお迎える青森県フェンシング協会の皆様の今後益々のご活躍を楽しみに、東北連盟の一員として心より応援させていただきます。



青森県フェンシング協会 50年の思い出

宮城県フェンシング協会 千田 健一

青森県フェンシング協会創立50周年、誠におめでとうございます。これまで協会運営にあたられた協会関係者の熱意と努力に対し、敬意を表するとともに賛辞を送ります。

私もフェンシングに携わって、もうじき半世紀が過ぎようとしています。その過程においては、青森県フェンシング協会の皆様方には大変お世話になりました。現役選手として、また、指導者として青森県を始めとする東北の皆様方に支えられた日々でもありました。時には自分に足りない多くの事を学ばせていただき、明日への活動の原動力とさせていただきます。

現役時代は、大馬・戸嶋両先輩が大きな壁として立ち塞がっていました。その存在はあまりにも大きく、その壁を乗り越えようともがき続けたことが、結果的には自分の成長へと繋がっていったことは確かです。そして、指導者としては特に高体連の赤坂先生、一戸先生、宮本先生の三人の先輩方から、たくさんのご教授いただきました。そして何よりいつも「打倒 今別高校」を目標に選手達と練習に明け暮れました。当時、監督就任後なかなか結果が出ず、指導者としての自信を失いかけていた昭和59年夏のインターハイ。鼎が浦高校を率いての3年目、決勝での名門今別高校との激闘が私の指導者としての本当の意味でのスタートになりました。大きな目標でもあった名門今別高校と互角に戦えた自信は、指導者として活動する上での大きな財産となり、それ以降、鼎が浦高校を指導していく中で、常に今別高校をライバルとして意識しないわけにはいかない存在ともなりました。そして今、これまでの東北フェンシングを支えてきた、鼎が浦高校、今別高校そして合川高校の3つの名門高校がその志や流れは新たな高校に受け継がれたものの、各種大会からその校名が消えてしまったことに、幾ばくかの寂しさを感じます。いかに時代の流れとはいえ、「フェンシング王国東北」の屋台骨を常に背負って、互いに切磋琢磨し競い合ってきた仲間であり、同士でしたから。

東北では新たな若き指導者が育ち、互いに競い合う時代を迎えています。青森県におかれましても、素晴らしい若手が指導者として活躍していると聞いています。今後さらに青森県フェンシング協会が大きく発展し、未来永劫の隆盛を続けられますようご祈念申し上げ発刊に寄せるお祝いの言葉といたします。



青森県フェンシング協会 50年の思い出

山形県フェンシング協会 副会長 山口 俊 昭

青森県フェンシング協会が設立半世紀という大きな節目を迎えられましたこと、心からご祝福申し上げますとともに、その長い歴史の中にあつて数多くの名選手を輩出し、輝かしい戦歴をあげてこられたこと憧憬の至りであります。設立当初からの具な思い出を論ずるには役不足ではありますが、貴協会との思い出に若干触れたいと存じます。

まず初めに貴県フェンシング協会の存在を知ることができたのは、開会式壇上で連盟理事長として大会の開始宣言を行う故・赤坂龍之介さんの毅然としたお姿でありました。当時は各県持ち回りの理事長職ではありませんでしたので、ご本人の力量がなせる連盟理事長の座であったと感じておりました。昭和52年、今別町において青森国体フェンシング競技が開催されましたが、山形から乗用車で一路今別町を目指しましたが、当時は東北自動車道が古川インターまでしか完成しておらず一日がかりの会場地入りでありました。大会成績も芳しくなかったせいか堤防から臨む津軽海峡の波はとても厳しく感じられました。

その15年後の平成4年に山形国体が開催されることが内定しましたが、当協会ではインターハイ開催の経験はあるものの会場地となった米沢では人材もノウハウも乏しく不安だらけの状態でありました。その後、先進地視察の機会を得て、東北連盟の好を頼りに青森県協会の皆さんに一から教を請うべく単身で今別町を訪れました。夕暮れ迫る今別駅に到着した時、阿部義治さんを始め数名の出迎えを受け、その夜は歓迎会を兼ねて頂きながら準備の状況を話し不安を訴えたところ、皆さんが口を揃えて、津軽弁のイントネーションで、「心配するな。何とかなる！」と言ひ、「焦るな、焦るな！」と力づけながら、青森県協会の持っている人材や経費の確保のノウハウをツブさにご指導頂きました。

お陰様で山形国体本番では、競技成績は満点とはいきませんでした。競技運営面では日本協会から満点の評価を頂くことができました。これも偏にあの今別での暖かいご指導の賜物であったと今でも感謝している次第であります。ご指導頂いたあの日の津軽海峡の波は何と優しい暖かな波であったことか…。

青森県フェンシング協会におかれましては、今後とも、更なる発展と連綿とした協会運営が図られますよう心からご祈念申し上げ拙文を終わらせて頂きます。



創立50周年を祝って 「めざせ青森県、追い越せ青森県」

福島県フェンシング協会 会長 佐藤 金正

青森県フェンシング協会創立50周年をお迎えになりましたこと、心からお祝い申し上げますとともに、福島県のフェンシング協会を牽引していただきましたことに感謝申し上げます。

過去の対戦記録を振り返ってみますと、昭和43年の第6回東北選手権大会において、団体2回戦で福島商業高校が今別高校と対戦し0対5で敗退しており、その後も敗退の記録がしばらく続きました。ようやく平成6年国体予選少年男子でようやく5対3で勝利しております。

青森県におかれましては昭和52年に今別町において国体を開催しておりますが、福島県は18年後の平成7年に川俣町におきまして国体開催となりました。そのための強化は、青森県の強化策を参考に、「めざせ青森県、追い越せ青森県」を合言葉に取り組んだ次第です。そのため、平成7年のふくしま国体以降は、青森県に勝利する機会が徐々に増えてきて、全国のレベルに肩を並べるまでになってきました。その成果として現れたのは、平成6年以降の国体において毎年入賞を果たし、平成12年には少年男子が優勝。平成13年の本吉町における国体少年男子において優勝は青森県、福島県が準優勝となり東北のフェンシングここにありと雄姿を見せることができた次第です。

競技運営におきまして、平成7年の「ふくしま国体」では、県内の競技役員だけでは全く足りず、東北フェンシング連盟のお力添えをいただき東北各県から審判員をはじめとしてご協力いただきました。遠方にもかかわらず青森県からもお越しいただき無事終了できましたことは、今もって忘れられない事実として福島県内の関係者には記憶に残されております。

改めて「東北はひとつ」を感じさせられました。

おかげさまで、各種大会運営もこなすことができるようになりました。特に今年度は、東北総合体育大会を川俣町で開催いたしました。青森県フェンシング協会はじめ東北フェンシング連盟の皆様にお力添えを戴き、無事に大会の運営をすることができました。又競技成績においても選手が力を発揮した姿を披露できましたことに改めて感謝申し上げます次第です。

今後とも、青森県フェンシング協会のご繁栄をお祈りいたすとともに、変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。



青森県フェンシング協会 50周年によせて

青森県フェンシング協会 副会長 宮 本 義 文

はじめに、この度青森県フェンシング協会が創立50周年を迎えましたこと誠におめでとうございます。また、これまで協会の運営にご尽力されてこられた方々に衷心より感謝申し上げます。

思い起こせば、協会の生みの親であります故・丹内先生と、育ての親であります故・赤坂龍之介先生の後を引き継ぎ、以来協会に携わること45年。当時フェンシングは認知度も低く競技人口も少ない競技でしたが、今別高校で産声を上げ当時の高校選手がその後活躍し、指導者として青森県に戻り複数の高校にフェンシング部を創設し、今日に至ることを考えると感慨深いものがあります。

近年、北京やロンドンオリンピックでの太田選手の活躍も追い風になって、フェンシング人気も高まりつつありますが、依然として競技人口が低迷している感は否めません。黙っていても生徒が集まる他の競技と違い、地域で地道に子供たちを育てていくことの大切さを痛感します。本協会としても普及振興を最重要課題として今後の一層の飛躍を期待したいと思います。

ここで、本県のフェンシングと深い関わりを持ち大変お世話になった次の方々に、心より感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

旧平賀町出身で、東京オリンピックで活躍され現在も東京で後進の指導にあたっておられる船水光行氏と、秋田県の佐々木信勝氏・成田政志氏、さらに警視庁で後進の指導にあたっておられた澤田聡氏。あらためましてお礼申し上げます。

終わりに、菊池健治名誉会長はご承知のごとく、気さくで実に魅力的な方で長年にわたり競技力向上と競技の普及に鋭意勤められ、更に運営面でのご援助をいただきましたことに心からお礼申し上げますとともに、今後もご意見番として叱咤激励のほど宜しく願い申し上げます。一方で、菊池憲太郎会長は人望厚く本協会を束ねるにはまさしく適任者であります。会長を大いに盛り上げ更に発展させるべく手を取り合っていこうではありませんか。

世代交代が進む中これまでの良き伝統を踏襲しつつ、若い風をも大いに取り入れ県フェンシング協会の更なる向上と発展を願ってやみません。



祝 辞

青森県フェンシング協会 副会長 熊谷 謙一

青森県フェンシング協会が発足し、本年で50年を迎えましたこと、列席しました皆様と共によろこびたいと存じます。

私どもむつ市協会は、県協会の力添をいただき、関 精吉 初代会長をもって発足し活動してまいりましたが、2008年12月にはその関会長が他界し、私が2代目会長を仰せつかり現在に至っております。

その間、多くの皆様方のご協力のもと、東北高校選手権、東北総合体育大会等の各種大会をむつ市で開催いたしました。

中でも、2011年の全国高等学校総合体育大会フェンシング競技大会の開催は最も心に残っております。

主催者側担当者とともに、数年も前から大会視察や会議を重ね準備をして参りました。他県での競技会場は全て体育館であり、むつ市のような人工芝のドームというのは無く私どもも不安でしたが、2010年度の東北総合体育大会において、参加者からは良い感想をいただきほっとしておりました。

しかし2011年3月11日、東日本大震災が各地に甚大な被害を与え、全国高校春季選抜大会は中止となり、夏の全国高校総体も開催が危惧されました。

宮城で行う予定だった東北高校選手権をドームで開催し、その後の関係各位の尽力により、何とか全国大会の開催に至ったのです。

そして、会場への苦情もなく、高体連の役員はじめ多くの方々から好評価を得、無事終了することができました。本当に2011年は生涯の中でも忘れ得ぬ年です。

ただ残念なことに主催地高校の競技成績があまり良いものではなく、選手強化の必要性を痛感させられました。そのためにも今後、オール青森として選手育成が必要となっております。私ども一員として協力していきたいと思っております。

終わりに、これまでの活動にあたりお世話頂いた県協会はじめご列席の皆様方に感謝申し上げます。今後ますますのご発展、ご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



フェンシング競技との関わり

青森県フェンシング協会 副会長 工藤 岩雄

昭和42年、新卒で女子高校の青森市立中央高校に赴任した。創部間もないフェンシング部が廊下で練習していた。窓に貼ってある模造紙のカタカナが英語ではなかった。

顧問の小野次郎先生（現棟方志功記念館館長）の転勤で、2年目から顧問を任された。当時野辺地高校に勤務していた赤坂龍之介先生が中央高校におられた日本体育大学の先輩である毛内正則先生にお願いして作った部であることを後で知らされた。赤坂先生は当時の今別高校校長であった丹内正一先生の要請でフェンシング部をつくるために中央大学の道場で修行し、全県にフェンシング競技を普及させた先駆者である。何が何だか分からないまま1年が過ぎようとしていた冬休み（1月）に事前に手紙でお願いしていた東京都練馬区にある「日本フェンシング会館」（前年に県のインターハイ出場メンバーが強化合宿していったところ）に習いに行った。当時一流の指導者であった山本耕司先生、戸田壮介先生に教わった。部活の経験がなく筋力にアンバランスがあるといわれた。最初は30分のレッスんがやっとであったが、覚え立てのタバコを我慢したら1時間はついていけるようになった。

昭和50年、青森国体の関係で今別高校に転勤した。大馬卓美先生も一緒だった。後に戸嶋志郎選手も加わって、これが本当のフェンシングかと感動した。国体前年の全日本フェンシング選手権大会で初優勝したときの感動も覚えている。監督は夏井忠幸氏、選手は阿部義治、大馬卓美、戸嶋志郎の各氏で決勝の相手はそれまでお世話になっていた秋田県チームであった。

昭和54年のインターハイ女子団体戦で今別高校が夢にまで見た初優勝をすることができた。あのときの赤坂先生の喜んだ顔を今でも忘れない。それまで指導して来られた蛭名まき子先生、その後を引き継いだ角谷圭子（後の澤田圭子）先生、澤田 渉コーチ他の皆さんのご指導の賜物である。今、菊池会長のもと若い指導者たちが県協会発展のために頑張っている姿を見て非常に喜ばしいと思っている。



私と本県フェンシング競技の回想

青森県フェンシング協会 副会長 阿部 義治

昭和37年8月に本県にフェンシング競技が誕生（当時の今別高校）してから52年が経過し、今日、青森県フェンシング協会が50周年記念式典を迎えることができました。

これも本県フェンシング競技の先駆者であります、故丹内正一先生（初代青森県フェンシング協会長・元今別高校長）をはじめ、選手の指導とフェンシング競技の普及に努められた故赤坂龍之介先生（初代理事長、元副会長）をはじめ、多くの指導者及び選手のご協力の賜物であります。

私も昭和41年4月今別高校入学と同時に同フェンシング部に入部し、3年間フェンシングにどっぷり浸かり、私のフェンシング人生がスタートし今に至っております。

当時の高校の部顧問の故柳谷昌弘先生の勧めもあり大学に進学し、卒業後に県内に帰りましたが、ちょうど青森県でのあすなる秋季国体が決定した時でもありました。

昭和49年7月あすなる国体フェンシング競技の会場地が本県フェンシング競技発祥地でもある今別町に決定されたこともあり、今別町役場に職員採用され今別高校フェンシング部同期生である澤田渉氏（現今別町教育長）と無我夢中で、昭和52年開催の全日本選手権大会とあすなる国体の開催準備や本県選手強化に取り組んだことが思い出されます。

特に、今別町で開催された第29回全日本選手権（昭和52年3月）では本県チームの悲願であった、男子フルーレ団体優勝、そして10月のあすなる国体では故高円宮憲仁殿下（当時三笠宮憲仁親王）を町立今別体育館にお迎えし、盛会の中にも青森選手団は総合第3位（天皇杯）を獲得する大活躍でした。

本県では、平成2年に本県高校の競技力向上を図るための対策の一環として、今別町の協力をいただき今別中学校フェンシング部の設置と小学生を対象とした今別町フェンシングスポーツ少年団が結成され、以降県内各地区の各指導者の努力により小中高の競技力の向上が図られ、全国少年大会、全国高校選抜大会、インターハイの開催など数々の大会が成功し、多くの好成績を残されました。

結びに、歴代の会長はじめ役員の皆様、各地区の指導者の方々に心から感謝を申し上げますと共に、青森県フェンシング協会の更なる活躍を願い私の回顧とお礼といたします。



県協会50年の思い出

青森県フェンシング協会 副会長 今井清孝

青森県フェンシング協会創立50周年誠にありがとうございます。この半世紀を思い起こすと「生みの親」と称される故丹内正一先生と、「育ての親」故赤坂龍之介先生により、現青森北高校今別校舎に産声をあげ、その後幾多の先輩方により競技スポーツとして普及され、青森中央高校、野辺地高校、黒石高校、青森商業高校、田名部高校、青森西高校などの高校に創部されたように記憶しております。

さらには、今別中学校に部が誕生し、県内各協会においてはジュニア剣士育成のための活動を展開され、今では全国大会で活躍するなどの選手が育っております。

これも偏に、会員並びに役員、フェンシングに関係された皆様の御尽力の賜物であることに深く感謝を申し上げます。

さて私事で恐縮ですが、黒石高校においてはフェンシング愛好会であった先輩方の意思を継ぎ、昭和46年度にフェンシング部が誕生、剣・プロテクター・ユニホームなし、おまけに指導者もない状況の中、「当時故赤坂先生と友好のあった坂田さんという人が大学でフェンシングをやってきた」と赤坂先生から紹介を受け、坂田勇夫監督（初代黒石市フェンシング協会会長）の指導の下、プロテクター等はお手製の物、剣は他校から借用するなど、見よう見まねも加わりどうにか試合に出させてもらえる位になりました。この時代こそ防具や武器の大切さ、他校生徒との友好関係や仲間意識の必要性を痛感させられました。それから5、10年と経過すると、全国高校総体優勝や入賞者が誕生するなど、坂田監督を中心にした我々の礎が発揮され、もちろん県協会の指導の下に実績がついて来たものと自負しております。

日本のフェンシングは近年の大会でも分かるように、粘り強く1ポイントを大事にし気力で勝つ試合をしています。ということは、体力技術力は劣っていないということです。マインドをいかに持つかどのような練習を積み上げたのか、日々の練習にあるようです。

来る東京オリンピックや青森国体へのアスリートを育成するため微力ながら精進するとともに、県フェンシング協会のご隆盛を祈念申し上げます。



青森県フェンシング協会と黒石 のフェンシングをふり返って

青森県フェンシング協会 理事長 駒井 昭雄

この度は、青森県フェンシング協会創立50周年を迎えましたこと、誠におめでとうございます。また、これまで協会の発展に関わり、ご尽力されてこられた諸先輩方に対し、衷心より感謝を申し上げる次第であります。

さて、私は県の理事長を務めておりますが、黒石市フェンシング協会長も受けておりました、まず、始めに黒石のフェンシングとの関わりを交えてお話させていただきます。

私が、今から41年前の昭和48年4月に黒石高等学校に入学し、友人の羽賀君に誘われてフェンシング部を見学に行き、当時は女子の先輩しかおらず、「すぐ大会に出れるよ」と言われ、軽い気持ちで入部したのが、フェンシングを始めたきっかけで今まで続けております。

高校時代のフェンシングの指導者は坂田勇夫氏です。黒石高校フェンシングの育ての親で拓殖大学フェンシング部の経験があります。又今別高校出身の吉田氏は、勤務が弘前ということで、毎日のように部活動に来ては、熱心な指導のためか、厳しい練習をしたことを覚えています。

私は、将来、後輩にフェンシングを指導したい思いで拓殖大学に進みましたが、技術的にもそうですが、精神的にもつらく厳しい日々の大学生活を送りました。今となっては思い出になります。……本当にきつかったです。

大学卒業後は、なんとか黒石市役所に勤務することでフェンシングを続けることが出来たことは、亡くなった親父のおかげです。大変感謝しています。今考えると一般の会社では続けるのは無理だなあ～と思います。

私が20・30歳の頃は、本当に黒石高校フェンシングに通い詰めた時期で、今別に勝つために後輩への指導においても厳しく、特に合宿では練習中に生徒が倒れる事、病院へ移送など日常茶飯事でした。30歳後半から協会理事として、県フェンシング協会の事業等に関わるようになり、黒石を代表として、県全体の合宿や大会に参加、東北選手権大会、ミニ国体などコーチや監督も経験させていただき、本当に良い思い出です。

話は変わりますが、近年、青森県のフェンシングはチョット元気がありません。もう一度「東北を制するものは日本を制する」を合言葉に、ジュニア育成と指導者の確保を考えていかなければならない時期に来ていると感じています。協会関係者の皆さんの支援や協力をお願いします。

終わりに、県内関係者及び本日の式典にお集まりの皆様の活躍と青森フェンシング協会のみますますのご発展をご祈念申し上げます。

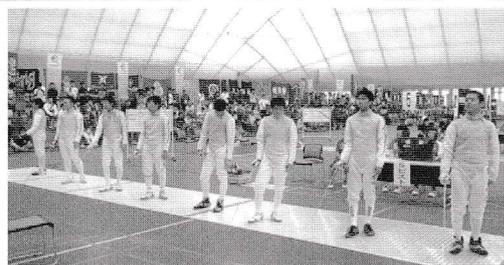
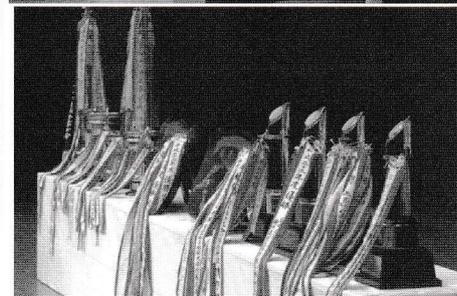
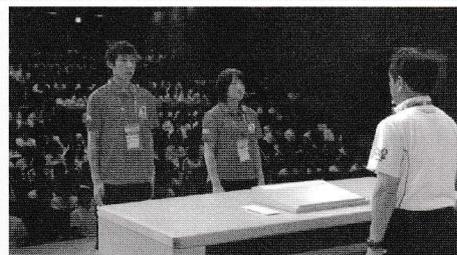
県フェンシング協会あゆみ

年	主な出来事
昭和37年 同年 8 月	・今別高校フェンシング部結成 ・青森県フェンシング協会発足
昭和40年	・青森中央高校フェンシング部結成
昭和42年	・野辺地高校フェンシング部結成
昭和43年	・青森県高校春季選手権を初開催
昭和44年	・正式種目として初の県高校総体開催 ・東北高校選手権、今別町で初開催
昭和46年	・青森商業高校フェンシング部結成 ・黒石高校フェンシング部結成
昭和48年	・小松町子選手が日韓親善ジュニア大会の日本代表となる。
昭和49年	・今別中にフェンシングクラブ結成 ・阿部義治選手が日韓親善大会出場
昭和51年	・戸嶋志郎選手がユニバーシアード出場
昭和52年	・国民体育大会リハーサル大会として全日本選手権が開催される ・国民体育大会（あすなろ国体）が本県で開催される
昭和54年	・東北総体が今別町で開催される
昭和55年	・田名部高校フェンシング部結成 ・少年女子国体出場
昭和56年	・東北高校選手権が野辺地町で開催される ・成年女子国体出場 ・少年男子国体出場
昭和60年	・東北総体が今別町で開催される ・金澤真利子（青商高出・東女体）ユニバーシアードに出場 ・澤田 聡（今別高出・警視庁）全日本選手権 サーブル個人 優勝
昭和61年	・澤田 聡（今別高出・警視庁）・金澤真利子（青商高出・和歌山県教育） 両名がアジア選手権出場
昭和62年	・東北高校選手権が青森市で開催される ・館 秀行（田名部高出・日体大）世界ジュニア選手権に出場
昭和63年	・澤田 聡（今別高出・警視庁）全日本選手権 サーブル個人 優勝
平成元年	・今別町ジュニアフェンシングクラブ スポーツ少年団結成 ・澤田 聡（今別高出・警視庁）全日本選手権 サーブル個人 優勝
平成 2 年	・東北高校選手権がむつ市で初開催 ・黒石ジュニアフェンシングクラブ結成 ・むつジュニアフェンシングクラブ結成 ・浜田 和仁（野辺地高出）全日本選手権サーブル個人 優勝 ・澤田 聡（今別高出・警視庁）・野呂 峰生（野辺地高出・警視庁） アジア選手権出場

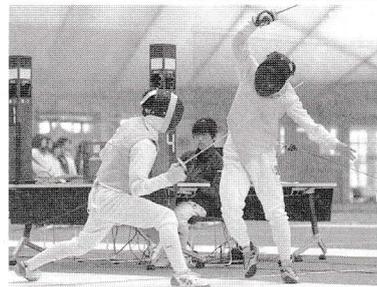
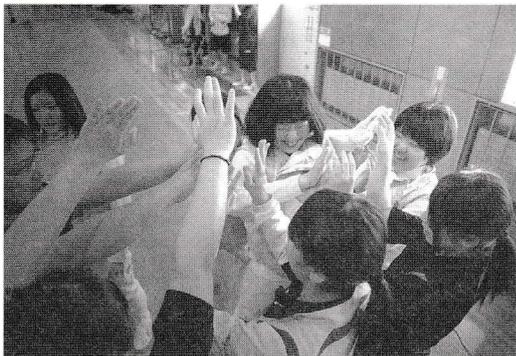
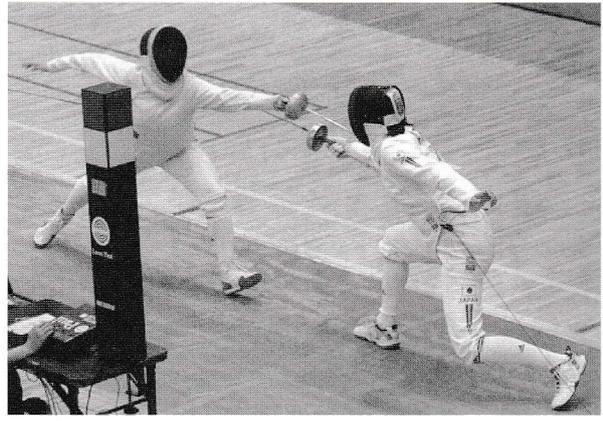
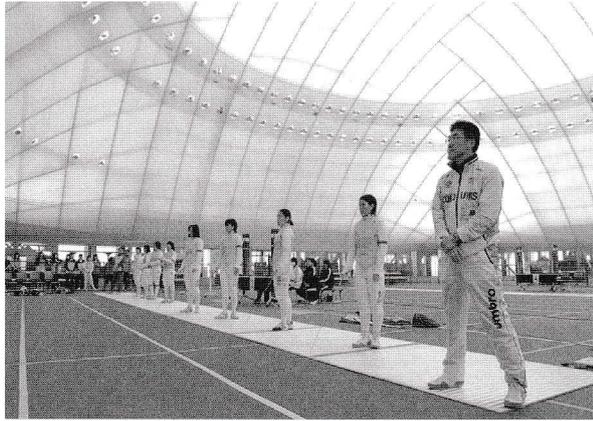
フェンシング50周年

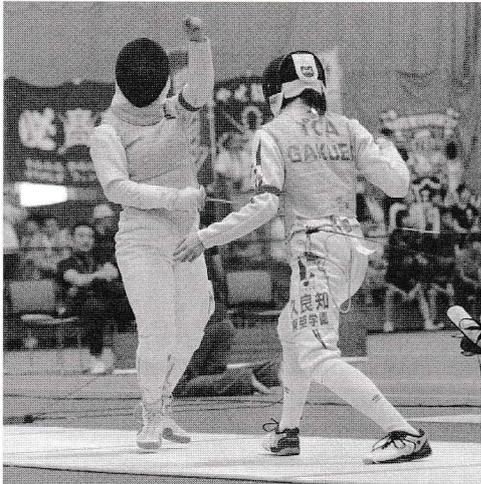
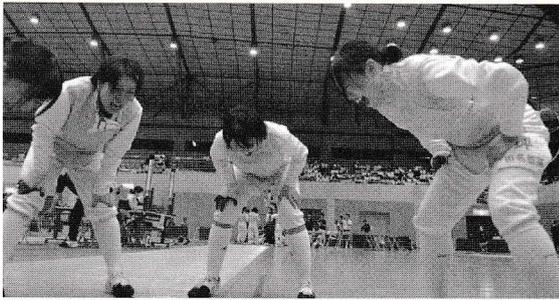
平成3年	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回県ジュニア大会がむつ市で開催 ・東北、北海道大会が今別町で開催される ・東北総体がむつ市で初開催 ・澤田 聡（今別高出、警視庁） 全日本選手権サーブル個人 優勝
平成4年	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回全国少年大会が今別町で開催
平成5年	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県フェンシング協会30周年 記念式典開催（むつ観光ホテル） ・30周年記念事業としてポーランドからスクリュードリック氏（東京オリンピック銀メダリスト）を招聘し強化合宿を開催 ・澤田 聡（今別高出、警視庁） 日本ナショナルチームメンバーとなる
平成6年	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高校選抜大会が今別町で開催
平成7年	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回東北少年大会が今別町で開催
平成8年	<ul style="list-style-type: none"> ・澤田 聡（今別高出、警視庁） アトランタオリンピック日本代表監督となる ・東北高校選手権がむつ市で開催 ・今別町でオリンピック日本代表選手の強化合宿が開催される
平成9年	<ul style="list-style-type: none"> ・坪 俊彦（田名部高出、日体大） ユニバーシアードに出場（イタリア国シチリア大会） ・北田 純（田名部高出、中央大） 世界ジュニア選手権に出場 ・唐川 卓磨（今別高） 世界カデ選手権に出場
平成12年	<ul style="list-style-type: none"> ・澤田 聡（今別高出、警視庁） シドニーオリンピック2度目の日本代表監督となる
平成13年	<ul style="list-style-type: none"> ・女子サーブル競技が正式に採用（個人・団体） ・川村 賢司（今別高出、警視庁） 全日本選手権エペ個人 優勝
平成14年	<ul style="list-style-type: none"> ・澤田 聡（今別校出、警視庁） 監督 アジア大会出場 ・川井 賢司（今別校出、警視庁） 選手 アジア大会出場 ・故 赤坂龍之介氏 「勲6等単光旭日章」受章 ・今別高校、全国高等学校総合体育大会及び国民体育大会（団体）2冠達成
平成16年	<ul style="list-style-type: none"> ・澤田 聡（今別高出、警視庁） アテネオリンピック3度目の日本代表監督となる
平成20年	<ul style="list-style-type: none"> ・荒 麻理香（田名部高出、東京農大） ワールドカップ女子エペグランプリ 中国・南京市
平成21年	<ul style="list-style-type: none"> ・今別高校が青森北高校今別校舎となる
平成23年	<ul style="list-style-type: none"> ・第54回全国高等学校総合体育大会、青森県むつ市（ウエルネスパーク しもきた克雪ドーム）で開催される ・名誉会長 菊池健治氏、日本体育協会・日本オリンピック委員会創立100周年記念事業功労賞及び青森県体育功労者賞受賞
平成24年	<ul style="list-style-type: none"> ・名誉会長 菊池健治氏、自治功労 旭日章受賞
平成25年	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度生涯スポーツ功労賞（文部科学省）戸嶋志郎氏受賞

全国高校総体(フェンシング競技)むつ市



県内大会風景





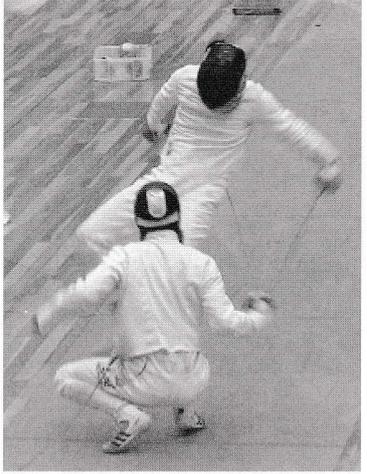
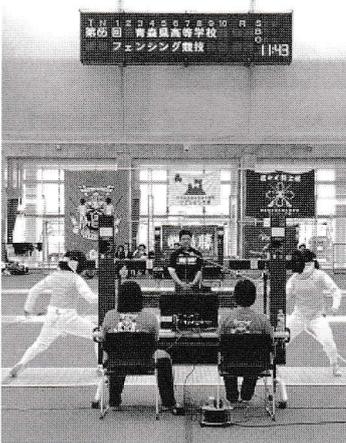
The To-o Nippo Press
東奥日報 夕刊
 2006(平成18)年 6月1日(木)
 〒030-0180
 西暦年第二四四号 三丁目一番地
 東奥日报社
 電話 017-739-1111
 定価 300円(税別) 2006

青中央女子フェンシング部 野辺西男子バドミントン部
努力と結束 輝く奨励賞
高校総体開会で表彰へ

【青森県青森市】青森県立青森高等学校(青森市)のフェンシング部と、青森県立野辺高等学校(野辺市)の男子バドミントン部が、高校総体開会式で奨励賞を受賞した。フェンシング部は、女子シングルスで、青森県立青森高等学校の選手が、青森県立野辺高等学校の選手と対戦し、勝利した。バドミントン部は、男子シングルスで、青森県立野辺高等学校の選手が、青森県立青森高等学校の選手と対戦し、勝利した。



【青森県青森市】青森県立青森高等学校(青森市)のフェンシング部と、青森県立野辺高等学校(野辺市)の男子バドミントン部が、高校総体開会式で奨励賞を受賞した。フェンシング部は、女子シングルスで、青森県立青森高等学校の選手が、青森県立野辺高等学校の選手と対戦し、勝利した。バドミントン部は、男子シングルスで、青森県立野辺高等学校の選手が、青森県立青森高等学校の選手と対戦し、勝利した。



あの頃の思い出



大会記録

『国民体育大会フェンシング競技』

年	会 場	記 録
昭和51年	佐賀県：白石町体育館	○成年男子サーブル団体 第6位（戸嶋・夏井・大馬）
昭和52年	青森県：今別町立体育館	☆総合 第3位 ○成年男子フルーレ 第6位 ○成年男子エペ 第6位 ○成年男子サーブル 第8位 ○成年女子フルーレ 第5位 ○少年男子フルーレ 第3位 ○少年女子フルーレ 第4位
昭和53年	長野県：箕輪町民体育館	○成年男子フルーレ 第8位 ○成年男子エペ 第3位 ○成年男子サーブル 第7位
昭和54年	宮崎県：小林高校体育館	成年男子（戸嶋・大馬・阿部（純）・澤田） ○成年男子フルーレ 第2位 ○成年男子サーブル 第2位
昭和55年	栃木県：栃木商業高校体育館	成年男子（戸嶋・大馬・阿部（純）・澤田） ○成年男子フルーレ 優勝 ○成年男子サーブル 第6位
昭和56年	滋賀県：五箇荘町民体育館	成年男子（戸嶋・大馬・阿部（純）・成田） ○成年男子サーブル 第3位
昭和57年	島根県：広瀬町中央公園体育館	成年男子（戸嶋・大馬・阿部） ○成年男子フルーレ 第6位 成年女子（澤田・金澤・今） ○成年女子フルーレ 第3位 少年男子（稲葉・蛸崎・長尾） ○少年男子フルーレ 第8位
昭和58年	群馬県：高崎経済大学体育館	少年女子（早津・相内・小鹿） ○少成女子フルーレ 第2位
昭和59年	奈良県：広陵町中学校体育館	成年男子（佐々木・中村・戸嶋） ○成年男子フルーレ 第4位 成年女子（金澤・今・早津） ○成年女フルーレ 第5位
昭和60年	鳥取県：河原町総合体育館	成年男子（佐々木・中村・戸嶋） ○成年男子フルーレ 第5位 成年女子（金澤・今・早津） ○成年女子フルーレ 第6位
昭和63年	京都府：大山崎町体育館	成年男子（佐々木・戸嶋・大馬・奈良岡・八木沢） ○成年男子フルーレ 第7位 ○成年男子サーブル 第6位 少年男子（松尾・相内・川村） ○少年男子フルーレ 第7位

フェンシング50周年

平成元年	北海道：苫小牧市総合体育館	成年男子（戸嶋・奈良岡・館・中野） ○成年男子エペ 第7位 ○成年男子サーブル 第8位
平成2年	福岡県：篠栗町体育館	成年男子（佐々木・工藤・館・中野） ○成年男子サーブル 第8位
平成3年	石川県：松任市総合体育館	成年男子（工藤・中野・室館） ○成年男子サーブル 第8位
平成4年	山形県：米沢市営体育館	成年男子（工藤・中野・畑中） ○成年男子サーブル 第8位 少年男子（坪・佐藤・太田） ○少年男子フルーレ 第8位
平成6年	愛知県：知多市民体育館	成年男子（工藤・中野・畑中） ○成年男子サーブル 第8位 少年男子（坪・佐藤・太田） ○少年男子フルーレ 第8位
平成8年	広島県：福山市体育館	成年男子（畑中・熊谷・折館・平山） ○成年男子フルーレ 第4位
平成9年	神奈川県：愛川町立体育館	成年男子（折館・平山・佐藤・坪） ○成年男子サーブル 第5位
平成11年	熊本県：長陽村中学校体育館	少年男子（西澤・阿部・稲寺） ○少年男子フルーレ 第7位
平成12年	富山県：婦中町民体育館	成年男子（平山・坪・佐藤・天内） ○成年男子フルーレ 第8位
平成13年	宮城県：本吉町民体育館	少年男子（阿部・大馬・戸嶋） ○少年男子フルーレ 優勝
平成14年	高知県：高知商業体育館	成年男子（館・平山・坪・佐藤） ○成年男子フルーレ 第8位
平成15年	静岡県：伊東市	少年男子（坂本・伊藤・大馬） ○少年男子フルーレ 第2位
平成16年	埼玉県：蓮田市	成年男子（平山・佐藤・坪・阿部） ○成年男子フルーレ 第6位 少年男子（牧野・大馬・山内） ○少年男子フルーレ 第8位 少年女子（下川・阿部・本間） ○少年女子フルーレ 第8位
平成17年	岡山県：玉野市	成年男子（坪・阿部・大馬・戸嶋） ○成年男子フルーレ 第8位 少年男子（大馬・澤田（昂）・澤田（稔）） ○少年男子フルーレ 第7位
平成18年	兵庫県：神戸市	少年男子（澤田・神・下川） ○少年男子フルーレ 第6位
平成19年	秋田県：北秋田市	成年男子（坪・阿部・大馬（匡）・大馬（義）） ○成年男子エペ 第4位
平成21年	新潟県：聖籠町	成年男子（坪・阿部・戸嶋） ○成年男子エペ 第5位

平成22年	山口県：岩国市	成年男子（坪・阿部・大馬） ○成年男子エペ 第5位
平成23年	岐阜県：大垣市	成年男子（坪・阿部・大馬） ○成年男子エペ 第7位

『全日本フェンシング選手権』

年	会 場	記 録
昭和51年	白石町	成年男子サーブル団体 6位（戸嶋・夏井・大馬）
昭和52年	今別町	（於…今別町立体育館） ・男子フルーレ団体（阿部・戸嶋・大馬）優勝
昭和53年	箕輪市	・男子フルーレ団体（阿部・戸嶋・大馬）準優勝 ・男子エペ団体（久保・戸嶋・阿部）4位 ・男子個人フルーレ 戸嶋 志郎 4位
昭和54年	小林市	・男子サーブル団体（戸嶋・阿部・大馬）4位 ・男子エペ団体（戸嶋・藤倉・佐藤）優勝
昭和55年	栃木市	・男子サーブル団体（戸嶋・阿部・大馬・澤田）3位 ・男子フルーレ個人 戸嶋 志郎 準優勝
昭和56年	五個荘町	・男子エペ団体（戸嶋・佐藤・中村）準優勝 ・男子サーブル個人 澤田 聡 準優勝
昭和57年	広瀬町	・男子フルーレ団体（戸嶋・大馬・佐藤）準優勝 ・男子サーブル団体（大馬・成田・阿部・戸嶋）準優勝
昭和58年	高崎市	・男子サーブル団体（戸嶋・大馬・成田）準優勝
昭和59年	広陵町	・男子フルーレ団体（戸嶋・佐々木・中村・大馬）優勝 ・男子サーブル団体（佐々木・成田・阿部・大馬）準優勝
昭和60年	長坂町	・男子フルーレ団体（戸嶋・大馬・阿部（純））4位
平成18年	北秋田市	・男子フルーレ団体（坪・阿部（秀）・大馬（匡））4位

『全国少年フェンシング大会』

年	開催地	記 録
平成3年	香川県：高松市	小学生男子 ・相内 豊（今別）5位 ・新岡 隆信（むつ）8位 中学生女子 ・中島 静（今別中）2位
平成4年	青森県：今別町	小学生男子 ・戸嶋 愛樹（今別）4位 ・奥崎（今別）・相内（今別）ベスト8 小学生女子 ・嶋中 居香（今別）ベスト8 中学生女子 ・中島 静（今別中）ベスト8
平成5年	千葉県：塩浜町	小学生女子 ・佐藤 由美（今別）2位
平成6年	東京都：駒沢	小学生男子 ・奥崎 匠（今別）優勝 ・唐川 達樹（今別）6位 小学生女子 ・相内 蘭子（今別）8位 中学校男子 ・相内 豊（今別中）5位 ・高木 一磨（今別中）6位
平成7年	山形県：米沢市	中学校男子 ・相内 豊（今別中）優勝
平成12年	静岡県：沼津市	中学校男子 ・佐藤 貴裕（今別中）5位

フェンシング50周年

平成13年	愛媛県：伊予三島市	中学校女子 ・藤田 清子（今別中） 8位
平成14年	北海道：札幌市	小学生男子 ・猪ノ口貴史（今別） 5位 小学生女子 ・嶋中 智慧（今別） 8位 中学校男子 ・大馬 義明（今別中） 5位
平成24年		小学男子B ・成田 武永（青森市） 3位
平成25年		小学男子（3・4） ・坪 颯登（黒石） 3位

『東北少年フェンシング大会』

年	開催地	記 録
平成7年	青森：今別町	小学校男子 ・阿部（今別） 2位 ・藤田（今別） ベスト4 小学校女子 ・小野（今別） 2位 ・相内（今別） ベスト4 中学校男子 ・相内（今別） 優勝 ・戸嶋（今別） 2位 ・奥崎（今別）・中島（今別） ベスト4 中学校女子 ・澤田（今別） ベスト4
平成8年	福島県：川俣町	小学校女子 ・古川 好子（黒石） ベスト4 ・太田 早紀（今別） ベスト4 中学校男子 ・南 大貴（今別） 優勝 ・西澤 敬幸（今別） ベスト4 中学校女子 ・澤田 唯（今別） 優勝
平成11年	秋田県：秋田市	小学校女子 ・唐川 瑞希（今別） 2位 中学校男子 ・本間 闘志（今別中） 優勝 ・佐藤 貴裕（今別中） 2位
平成12年	青森県：黒石市	小学校女子 ・猪ノ口めいこ（今別） 6位 中学校女子 ・藤田 清子（今別中） 5位
平成13年	福島県：川俣町	小学校男子 ・福士 陵（黒石） 7位 小学校女子 ・嶋中 智慧（今別） 6位 ・猪ノ口めいこ（今別） 7位 中学校男子 ・大馬 義明（今別中） 6位 中学校女子 ・下川 知夏（今別中） 8位
平成14年	宮城県：本吉町	小学校男子 ・猪ノ口貴史（今別） 6位 小学校女子 ・嶋中 智慧（今別） 2位 ・猪ノ口めいこ（今別） 3位 ・小鹿 亜美（今別） 5位 中学校男子 ・大馬 義明（今別中） 2位 中学校女子 ・阿部 美樹（今別中） 3位 ・唐川 瑞希（今別中） 7位 ・本間絵里佳（今別中） 8位
平成15年	山形県：米沢市	小学校男子 ・猪ノ口貴史（今別） 6位 ・澤田 大樹（今別） 7位 中学校女子 ・嶋中 智慧（今別中） 7位
平成16年	秋田県：秋田市	小学校男子 ・澤田 悠太（今別） 6位 中学校女子 ・嶋中 智慧（今別中） 6位
平成18年	青森県：黒石市	中学校男子 ・猪ノ口貴史（今別中） 5位 ・澤田 大樹（今別中） 8位
平成19年	福島県：川俣町	小学校男子A ・濱野 聖亜（今別） 5位 小学校男子B ・川村 紘平（今別） 5位 小学校女子B ・田中 美雪（今別） 3位 中学校男子 ・澤田 悠太（今別中） 3位

平成20年	宮城県：本吉町	小学校男子A 小学校男子B 中学校男子	・澤田 晃希 (今別) 5位 ・川村 紘平 (今別) 7位 ・澤田 悠太 (今別中) 5位
平成22年	秋田市：森吉町	小学男女混合 小学校男子B 小学校男子A	・坪 颯登 (黒石) 2位 ・坪 颯馬 (黒石) 5位 ・川村 紘平 (今別) 6位 ・田中 純 (今別) 5位
平成23年	岩手県：一関市	小学校男女混合 小学校女子B 小学校女子B	・坪 颯登 (黒石) 優勝 ・木立 悠奈 (黒石) 8位 ・木立 悠奈 (黒石) 8位
平成24年	福島県：	小学校男子B 中学校男子	・坪 颯馬 (黒石) 優勝 ・川村 紘平 (今別中) 3位

『東北総合体育大会フェンシング競技』

年	会 場	記 録
昭和38年	秋田市体育館	※第1回東北選手権大会開催
昭和43年	仙台市体育館	成年男子サーブル ・坂田 4位 成年女子フルーレ ・吉田 4位
昭和45年	山形東高校体育館	成年女子フルーレ ・蝦名 6位
昭和46年	合川高校体育館	成年男子エペ ・宮本 6位
昭和47年	一関市文化会館	成年男子エペ ・澤田 4位
昭和48年	宮城県若柳中学校	成年男子フルーレ ・阿部 3位 成年男子エペ ・阿部 2位 成年女子フルーレ ・蝦名 5位 ・澤田 6位
昭和49年	一関二高体育館	成年男子フルーレ ・阿部 3位 成年男子エペ ・阿部 3位 成年男子サーブル ・野田頭 3位 成年女子フルーレ ・蝦名 2位 ・間山 5位
昭和50年	合川高校体育館	成年男子フルーレ ・大馬 卓美 優勝 成年男子サーブル ・夏井 忠幸 3位 ○成年女子団体 2位 (国体出場ならず) ○少年女子団体 5位 (国体出場ならず) ・大馬 卓美 4位
昭和51年	気仙沼小学校体育館	成年男子フルーレ ・戸嶋 志郎 優勝 成年男子エペ ・戸嶋 志郎 優勝 成年男子サーブル ・阿部 純夫 5位 ○成年女子団体 2位 (国体出場ならず) 成年女子フルーレ ・蝦名まき子 4位 ○少年男子団体 2位 (国体出場ならず) 少男個人 ・石山辰志郎 (今別高) 4位 少女個人 ・安保 瞳 (今別高) 3位 ・吉田喜代子 (今別高) 6位 ・大馬 卓美 5位 ・藤倉 寛 5位 ・夏井 忠幸 6位 ・藤巻 恵子 5位
昭和52年	福島商業高校体育館	成年男子フルーレ ・阿部 純夫 3位 成年男子サーブル ・阿部 純夫 2位 成年女子フルーレ ・小松 町子 3位 少男個人 ・駒ヶ嶺守人 (今別高) 優勝 少女個人 ・太田真理子 (今別高) 2位 ・安保 瞳 (今別高) 3位 ・中嶋 4位

フェンシング50周年

昭和53年	寒河江工業体育館	成年男子フルーレ ・戸嶋 志郎 優勝 ・大馬 卓美 4位 成年男子エペ ・佐藤 均 2位 ・藤倉 寛 4位 成年男子サーブル ・阿部 純夫 5位 ・大馬 卓美 6位 ○成年女子団体 2位 (国体出場ならず) 成年女子フルーレ ・角谷 圭子 3位 ・中嶋 千秋 4位 ○少年男子団体 2位 (国体出場ならず) 少男個人 ・菊池 満 (今別高) 4位 ○少年女子団体 2位 (国体出場ならず) 少女個人 ・牧野千恵子 (今別高) 4位 ・秋元 末子 (今別高) 5位
昭和54年	今別町立体育館	成年男子フルーレ ・佐藤 均 4位 ・大馬 卓美 5位 成年男子エペ ・佐藤 均 優勝 成年男子サーブル ・阿部 純夫 優勝 ・澤田 聡 2位 ○成年女子団体 2位 (国体出場ならず) 成年女子フルーレ ・安保 瞳 3位 ・中嶋 千秋 5位 ○少年男子 少男個人 ・熊谷 克司 (野辺地高) 4位 ○少年女子団体 2位 (国体出場ならず) 少女個人 ・田中 良子 (今別高) 優勝 ・今 都志子 (青商高) 6位
昭和55年	一関市体育文化会館	成年男子フルーレ ・大馬 卓美 2位 ・戸嶋 志郎 3位 成年男子サーブル ・佐々木新治 4位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) 成年女子フルーレ ・梅田菜穂子 3位 ・中嶋 千秋 4位 ○少年男子 少男個人 ・倉本 英樹 (野辺地高) 5位 ○少年女子団体 (国体出場権獲得) 少女個人 ・金澤真利子 (青商高) 3位 ・今 都志子 (青商高) 5位
昭和56年	二ツ井高校体育館	成年男子フルーレ ・戸嶋 志郎 優勝 ・大馬 卓美 2位 成年男子エペ ・中村 忠三 優勝 ・阿部 亮一 3位 成年男子サーブル ・成田 正剛 3位 ○成年女子団体 (国体出場権獲得) 成年女子個人 ・今 都志子 2位 ・金澤真利子 4位 ○少年男子団体 (国体出場権獲得) 少男個人 ・蛸崎 俊一 (今別高) 5位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・嶋中美代子 (今別高) 5位 ・坂本 琴美 (今別高) 6位
昭和57年	泉市民体育館	成年男子フルーレ ・戸嶋 志郎 2位 ・阿部 純夫 5位 成年男子エペ ・中村 忠三 2位 ・戸嶋 志郎 5位 成年男子サーブル ・成田 正剛 優勝 ・大馬 卓美 4位 ○成年女子団体 (国体出場権獲得) 成年女子フルーレ ・金澤真利子 3位 ・今 都志子 4位 ○少年男子団体 (国体出場権獲得) 少男個人 ・蛸崎 俊一 (今別高) 2位 ・長尾 文知 (黒石高) 6位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・相内菜穂子 (今別高) 4位
昭和58年	福島商業高校体育館	成年男子フルーレ ・中村 忠三 5位 成年男子エペ ・中村 忠三 3位 成年男子サーブル ・阿部 純夫 4位 ・成田 正剛 5位

昭和58年	福島商業高校体育館	<p>○成年女子団体 (国体出場権獲得) 成年女子フルーレ ・金澤 真利子 2位</p> <p>○少年男子団体 (国体出場ならず) 少男個人 ・小田切東之 (黒石高) 3位 ・佐藤 均 (黒石高) 4位</p> <p>○少年女子団体 (国体出場権獲得) 少女個人 ・相内菜穂子 (今別高) 優勝 ・川村ひとみ (青商高) 3位</p>
昭和59年	米沢市営体育館	<p>成年男子フルーレ ・戸嶋 志郎 3位 ・阿部 純夫 6位 成年男子サーブル ・佐々木新治 2位 ・成田 正剛 4位</p> <p>○成年女子団体 (国体出場権獲得) 成年女子フルーレ ・今 都志子 優勝 ・早津 明美 4位</p> <p>○少年男子団体 (国体出場ならず) 2位 少男個人 ・赤平 伸秋 (今別高) 3位</p> <p>○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・新井田喜代子 (今別高) 5位</p>
昭和60年	今別町立体育館	<p>成年男子フルーレ ・戸嶋 志郎 4位 成年男子エペ ・中村 忠三 4位 ・成田 正剛 4位 成年男子サーブル ・成田 正剛 4位 ・阿部 純夫 5位</p> <p>○成年女子団体 (国体出場ならず) 成年女子フルーレ ・早津 明美 5位 ・小鹿ひとみ 6位</p> <p>○少年男子団体 (国体出場権獲得) 少男個人 ・田中 利弘 (今別高) 2位</p> <p>○少年女子団体 (国体出場ならず) 2位 少女個人 ・嶋中 光子 (今別高) 2位 ・溝江 礼子 (黒石高) 5位</p>
昭和61年	岩手県 サン・アビリティーズ一関	<p>成年男子フルーレ ・菊池 満 5位 成年男子エペ ・戸嶋 志郎 3位 ・中村 忠三 4位 成年男子サーブル ・成田 正剛 2位 ・佐々木新治 4位</p> <p>○成年女子団体 (国体出場ならず) 成年女子フルーレ ・早津 明美 3位 ・川村ひとみ 6位</p> <p>○少年男子団体 (国体出場ならず) 少男個人 ・川村 聡 (今別高) 2位 ・中嶋 豪 (今別高) 3位</p> <p>○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・上野ひとみ (今別高) 2位 ・川浪 修子 (今別高) 3位</p>
昭和62年	合川町民体育館	<p>成年男子フルーレ ・工藤 雄一 4位 ・菊池 満 6位 成年男子サーブル ・成田 正剛 4位 ・佐々木新治 5位</p> <p>○成年女子団体 (国体出場ならず) ○少年男子団体 (国体出場ならず) 少男個人 ・室館 進 (田名部高) 4位 ・齋藤 博志 (黒石高) 5位</p> <p>○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・池田 順子 (黒石高) 4位</p>
昭和63年	福島市湯野体育館	<p>成年男子フルーレ ・工藤 雄一 2位 成年男子エペ ・田沢 直樹 4位</p> <p>○成年女子団体 (国体出場ならず) 成年女子フルーレ ・嶋中 光子 5位</p> <p>○少年男子団体 (国体出場権獲得) 少男個人 ・川村 賢司 (今別高) 3位</p> <p>○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・嶋中 里加 (今別高) 4位 ・岩崎千恵利 (今別高) 5位</p>

フェンシング50周年

平成元年	本吉町民総合体育館	成年男子サーブル ・佐々木新治 2位 成年男子エペ ・館 秀行 5位 ・奈良岡修司 6位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) 成年女子フルーレ ・川村ひとみ 4位 ・中居 敬子 5位 ○少年男子団体 (国体出場ならず) 少男個人 ・坪 直紀 (田名部高) 優勝 ・平山 匠治 (今別高) 6位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・須藤真矢子 (黒石高) 5位 ・関 奈保子 (田名部高) 6位
平成2年	米沢市営体育館	成年男子フルーレ ・室館 進 5位 成年男子エペ ・館 秀行 4位 ・室館 進 5位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) ○少年男子団体 (国体出場ならず) 少男個人 ・熊谷 義直 (田名部高) 優勝 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・関 志津香 (今別高) 5位
平成3年	むつ市民体育館	成年男子フルーレ ・松尾 圭哉 6位 成年男子エペ ・館 秀行 4位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) ○少年男子団体 (国体出場ならず) 3位 少男個人 ・折館 謙一 (田名部高) 優勝 ○少年女子団体 (国体出場権獲得) (関、八戸、嶋中) 少女個人 ・関 志津香 (今別高) 6位
平成4年	一関二高体育館	成年男子フルーレ ・中野 敬三 3位 成年男子エペ ・館 秀行 4位 ○成年女子団体 (国体出場権獲得) 3位 (永田・今井・関) ○少年男子団体 (国体出場権獲得) 1位 (坪・佐藤・太田) ○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・相内 美和 (今別高) 5位
平成5年	川俣町体育館	成年男子フルーレ ・松尾 圭哉 4位 ・坪 俊彦 6位 成年男子サーブル ・畑中 俊光 4位 成年男子エペ ・川村 賢司 5位 ・館 秀行 6位 ○成年女子・少年男子・少年女子団体 (国体出場ならず)
平成6年	本吉町民総合体育館	成年男子サーブル ・畑中 俊光 5位 成年男子エペ ・館 秀行 4位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) ○少年男子団体 (国体出場ならず) 少男個人 ・天内 宣明 (田名部高) 4位 ・堂橋 正人 (今別高) 5位 ○少年女子団体 (国体出場権獲得) (中津、南部、) 少女個人 ・中津 直子 (田名部高) 4位
平成7年	合川町民体育館	成年男子サーブル ・畑中 俊光 4位 ・中野 敬三 5位 成年男子エペ ・坪 俊彦 優勝 ○成年女子・少年男子・少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・小鹿ゆう子 (今別高) 6位
平成8年	米沢市営体育館	成年男子フルーレ ・平山 寛哉 3位 ・折館 謙一 4位 成年男子サーブル ・折館 謙一 5位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) 成年女子フルーレ ・関 志津香 6位

平成8年	米沢市営体育館	○少年男子団体 (国体出場権獲得) 2位 (唐川・小又・相内) 少男個人 ・小又 拓弥 (田名部高) 4位 ・相内 豊 (今別高) 6位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・澤田 雅子 (今別高) 3位
平成9年	今別町立体育館	成年男子サーブル ・折館 謙一 5位 成年男子エペ ・相内 譲 6位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) ○少年男子団体 (国体出場権獲得) 1位 (唐川・相内・西澤) 少男個人 ・唐川 卓磨 (今別高) 優勝 ・相内 豊 (今別高) 2位 ○少年女子団体 (国体出場権獲得) 2位 (大馬・赤井・相内) 少女個人 ・大馬明日香 (田名部高) 3位
平成10年	一関二高体育館	成年男子エペ ・坪 俊彦 2位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) ○少年男子団体 (国体出場権獲得) 2位 (相内・西澤・稲寺) 少男個人 ・相内 豊 (今別高) 3位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・佐々木 希 (今別高) 5位
平成11年	本吉町民総合体育館	成年男子フルーレ ・佐藤 裕介 5位 ・平山 寛哉 6位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) ○少年男子団体 (国体出場権獲得) 2位 (西澤・稲寺・阿部) 少男個人 ・阿部 秀嗣 (今別高) 3位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・佐藤 由美 (今別高) 5位
平成12年	合川町民体育館	成年男子フルーレ ・坪 俊彦 5位 成年男子サーブル ・平山 寛哉 5位 ・天内 宣明 6位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) ○少年男子団体 (国体出場ならず) 少男個人 ・阿部 秀嗣 (今別高) 5位 ○少年女子団体 (国体出場ならず)
平成13年	川俣町体育館	成年男子フルーレ ・坪 俊彦 3位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) ○少年男子団体 (国体出場権獲得) 1位 (阿部・戸嶋・大馬) 少男個人 ・戸嶋 愛樹 (今別高) 4位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 少年女子 ・成田 蘭子 (今別高) 4位
平成14年	川俣町体育館	成年男子フルーレ ・坪 俊彦 3位 成年男子エペ ・館 秀行 5位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) ○少年男子団体 (国体出場ならず) 少男個人 ・北田 純 (田名部高) 3位 ・本間 闘士 (今別高) 6位 ○少年女子団体 (国体出場ならず)
平成15年	むつ市民体育館	成年男子サーブル ・佐藤 裕介 3位 ・天内 宣明 6位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) ○少年男子団体 (国体出場権獲得) 2位 (坂本・伊藤・大馬) 少男個人 ・大馬 義明 (今別高) 3位 ・牧野 好樹 (今別高) 4位 ○少年女子団体 (国体出場権獲得) 2位 (下川・阿部・赤田) 少女個人 ・阿部 遥 (今別高) 5位

フェンシング50周年

平成16年	一関文化センター	成年男子フルーレ ・阿部 秀嗣 優勝 成年男子サーブル ・阿部 秀嗣 5位 ・平山 寛哉 6位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) ○少年男子団体 (国体出場権獲得) 2位 (牧野・大馬・山内) 少男個人 ・大馬 義明 (今別高) 4位 ・牧野 好樹 (今別高) 6位 ○少年女子団体 (国体出場権獲得) 2位 (下川・阿部・本間) 少女個人 ・下川 知夏 (今別高) 3位 ・阿部 美樹 (今別高) 4位
平成17年	北秋田市合川体育館	成年男子フルーレ ・阿部 秀嗣 3位 ・戸嶋 愛樹 4位 成年男子サーブル ・阿部 秀嗣 6位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) 成年女子フルーレ ・古川 好子 5位 ○少年男子団体 (国体出場権獲得) 3位 (大馬・澤田(昂)・澤田(稔)) 少男個人 ・澤田 稔章 (今別高) 4位 ・大馬 義明 (今別高) 5位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・本間絵里佳 (今別高) 3位 ・阿部 美樹 (今別高) 4位
平成18年	本吉町民総合体育館	成年男子フルーレ ・坪 俊彦 4位 成年男子エペ ・坪 俊彦 2位 成年男子サーブル ・下浅 健也 4位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) 4位 ○少年男子団体 (国体出場権獲得) 3位 (澤田・神・下川) 少男個人 ・澤田 稔章 (今別高) 5位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 少女個人 ・坂本美耶子 (田名部高) 2位
平成19年	川俣町体育館	成年男子サーブル ・澤田 稔章 3位 ・下浅 健也 4位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) 3位 成年女子エペ ・橋本さつき 4位 成年女子サーブル ・下川 知夏 6位 ○少年男子団体 (国体出場ならず) 5位 ○少年女子団体 (国体出場権獲得) 1位 (菊池・沼田・嶋中) 少女個人 ・沼田 彩佳 (今別校舎) 5位 ・菊池 翔子 (田名部高) 6位
平成20年	米沢市営体育館	成年男子フルーレ ・阿部 秀嗣 3位 ・大馬 義明 4位 成年男子サーブル ・下浅 健也 2位 ○成年女子団体 (国体出場ならず) 4位 成年女子フルーレ ・本間絵里佳 6位 成年女子エペ ・橋本さつき 5位 成年女子サーブル ・菊池 翔子 5位 ○少年男子団体 (国体出場ならず) 5位 少男個人 ・後藤 清大 (黒石高) 4位 ○少年女子団体 (国体出場権獲得) 1位 (嶋中・三國・森山) 少女個人 ・嶋中 智慧 (青森北高) 5位
平成21年	むつ市しもきた克雪ドーム	成年男子サーブル ・澤田 稔章 優勝 ○成年女子団体 (国体出場ならず) 5位 成年女子エペ ・三國 千種 4位 成年女子サーブル ・嶋中 智慧 5位 ○少年男子団体 (国体出場権獲得) 2位 (猪ノ口・澤田(大)・澤田(悠)) 少男個人 ・澤田 大樹 (今別校舎) 6位

平成21年	むつ市しもきた克雪ドーム	○少年女子団体 (国体出場ならず) 5位 少女個人 ・森山 瞳子 (田名部高) 6位
平成22年	岩手県：一関市	成年男子フルーレ ・阿部 秀嗣 3位 成年男子エペ ・戸嶋 愛樹 4位 成年男子サーブル ・澤田 稔章 優勝 ○成年女子団体 (国体出場ならず) 4位 成年女子フルーレ ・嶋中 智慧 5位 ・森山 瞳子 6位 成年女子エペ ・三國 千種 6位 成年女子サーブル ・森山 瞳子 5位 ○少年男子団体 (国体出場ならず) 3位 少男個人 ・澤田 悠太 (今別校舎) 4位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 4位 少女個人 ・柴崎 愛理 (青森中央高) 6位
※平成23年度から平成25年度の東北総合体育大会については、国体ブロック予選形式で開催する。		
平成23年	仙台三高体育館	○成年女子団体 (国体出場ならず) 4位 ○少年男子団体 (国体出場ならず) 5位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 3位
平成24年	北秋田市合川体育館	○成年女子団体 (国体出場ならず) 6位 ○少年男子団体 (国体出場ならず) 6位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 4位
平成25年	米沢市営体育館	○成年女子団体 (国体出場ならず) 5位 ○少年男子団体 (国体出場ならず) 4位 ○少年女子団体 (国体出場ならず) 5位

『全国高校総合体育大会・全国高等学校学校選抜フェンシング大会』

年	全国総体開催地	記 録
昭和39年		全国高校総体に初出場 (今別高)
昭和42年	福井県：福井市	女子個人フルーレ ・八戸 文枝 (今別高) 3位
昭和43年	広島県：福山電波工業高校	○団体戦に ★今別高 (初出場)
昭和46年	香川県：高松市	男子個人フルーレ ・田辺 治彦 (今別高) 4位
昭和48年	愛知県：名古屋市	○女子団体 ★今別高校 3位 (間山・小松・藤巻) 女子個人フルーレ ・小松 町子 (今別高) 2位
昭和49年	福岡県：篠栗町	男子個人サーブル ・澤田 聡 (今別高) 6位
昭和50年	東京都：青山学院	○女子団体 ★今別高校 4位 (中島・梅田・藤田) 男子個人フルーレ ・田中 忠 (今別高) 2位 女子個人フルーレ ・中島 千秋 (今別高) 3位
昭和51年	長野県：箕輪市	男子個人エペ ・木川 一雄 (黒石高) 6位
昭和52年	岡山県：新見高校	男子個人エペ ・中村 忠三 (野辺地高) 優勝 男子個人サーブル ・佐々木新治 (野辺地高) 5位
昭和53年	山形県：寒河江市	男子個人エペ ・木村 寿男 (今別高) 6位
昭和54年	愛知県：名古屋市	●全国高校選抜 女子個人フルーレ ・田中 良子 (今別高) 2位
	京都府立体育館	○女子団体 ★今別高校 優勝 (田中・牧野・小川) 男子個人エペ ・工藤 博史 (黒石高) 優勝 女子個人フルーレ ・田中 良子 (今別高) 4位

フェンシング50周年

昭和56年	茨城県立スポーツセンター	男子個人フルーレ ・相馬 敏幸 (黒石高) 4位 男子個人サーブル ・山田 玄太 (野辺地高) 6位
昭和57年	愛知県：名古屋市	●全国高校選抜 男子個人フルーレ ・蛭崎 俊一 (今別高) 4位
	鹿児島県：指宿総合体育館	男子個人フルーレ ・蛭崎 俊一 (今別高) 優勝
昭和58年	愛知県：尾張旭市	○女子団体 ★今別高校 優勝 (小鹿・相内・菊地・葛西)
昭和59年		●全国高校選抜 男子個人フルーレ ・葛西 信一 (黒石高) 優勝
	秋田県：二ツ井町	○女子団体 ★今別高校 2位 男子個人フルーレ ・田中 勲 (今別高) 3位 男子個人エペ ・工藤 毅 (青商高) 5位 男子個人サーブル ・畑中 茂 (田名部高) 6位
昭和60年	石川県：松任市	男子個人サーブル ・中島 豪 (今別高) 6位
昭和61年		●全国高校選抜 男子団体 ★今別高校 準優勝 (川村・中嶋・吉田) 女子団体 ★今別高校 3位 (川浪・上野・小鹿)
	広島県：福山市	○男子団体 ★今別高校 優勝 (川村・中嶋・吉田) 男子個人フルーレ ・川村 聡 (今別高) 3位 ○女子団体 ★今別高校 3位 (川浪・上野・小鹿)
平成元年		●全国高校選抜 男子団体 ★田名部高校 3位 (坪・磯谷・渡辺)
平成3年	静岡県：沼津市	○男子団体 ★今別高校 2位 (平山・勝野・松本) 男子個人フルーレ ・平山 寛哉 (今別高) ベスト8 男子個人サーブル ・勝野 浩幸 (今別高) 3位
平成4年	大分県：大分市	●全国高校選抜 男子団体 ★田名部高校 3位 (坪・佐藤・北上)
	宮崎県：国富町	男子個人フルーレ ・坪 俊彦 (田名部高) 2位 ・佐藤 裕介 (田名部高) ベスト4
平成12年	岐阜県：大垣市	●全国高校選抜 男子団体 ★今別高校 3位
平成13年	京都府：大山崎	●全国高校選抜 男子団体 ★今別高校 2位 (阿部・大馬・戸嶋)
	熊本県：大矢野町	○男子団体 ★今別高校 優勝 (阿部・大馬・戸嶋) 男子個人フルーレ ・阿部 秀嗣 (今別高) 2位 ○女子団体 ★今別高校 ベスト8 女子個人エペ ・相内 蘭子 (今別高) 4位
平成14年	茨城県：水戸市	男子個人フルーレ ・本間 闘士 (今別高) ベスト16 男子個人サーブル ・本間 闘士 (今別高) ベスト16
平成16年	鳥取県：鳥取市	男子個人フルーレ ・大馬 義明 (今別高) 5位
平成18年	京都府：大山崎	男子個人サーブル ・澤田 稔章 (今別高) 6位
平成20年	埼玉県：新座市	男子個人エペ ・後藤 清大 (黒石高) 4位 女子個人エペ ・三國 千種 (今別高) 6位
平成21年	奈良県：宇陀市	男子個人フルーレ ・澤田 悠太 (青森北今別) 7位 男子個人エペ ・澤田 大樹 (青森北今別) 6位

平成22年	沖縄県：金武町	男子個人サーブル ・今 真哉（黒石高） 4位 ○女子団体 ★黒石高校 ベスト8
平成24年	富山県：富山市	男子個人サーブル ・成田 剛（黒石高） 4位
平成25年	大分県：日田市	男子個人サーブル ・長内 勇樹（黒石高） 7位

『東北高等学校フェンシング選手権大会』

年	開催地	記 録
昭和39年		
昭和42年		男子個人 ・嶋中 文博（今別高） 3位 ・藤田 和夫（今別高） 6位 女子個人 ・吉田みさ子（今別高） 4位
昭和43年		○男子団体 ★今別高校 3位 男子個人 ・阿部 義治（今別高） 3位
昭和44年		男子個人 ・浜中 登（野辺地高） 3位 ・吉田 優（今別高） 5位
昭和46年		男子個人 ・上野 信雄（今別高） 5位 女子個人 ・前田 恵子（野辺地高） 5位
昭和48年		○男子団体 ★今別高校 準優勝 男子個人 ・千葉 悦治（青商高） 6位 女子個人 ・間山 啓子（今別高） 3位 ・藤巻 恵子（今別高） 4位
昭和49年		男子個人 ・浜田（野辺地高） 6位
昭和51年		○女子団体 ★今別高校 3位
昭和54年	秋田県：合川高校	男子エペ ・熊谷 克司（野辺地高） 2位 男子サーブル ・浜田 和仁（野辺地高） 6位 女子フルーレ ・田中 良子（今別高） 優勝
昭和55年	岩手県：一関市	○男子団体 ★野辺地高校 3位 ★青森商業高校 4位 ○女子団体 ★青森商業高校 3位 男子個人フルーレ ・和田 真治（青商高） 3位 男子個人エペ ・倉本 英樹（野辺地高） 5位 ・相馬 敏幸（黒石高） 6位 男子個人サーブル ・浜田 和仁（野辺地高） 2位 ・高橋 将仁（黒石高） 5位 女子個人フルーレ ・今 都志子（青商高） 2位 ・金澤真利子（青商高） 4位 ・藤田富士子（青商高） 5位
昭和56年	青森県：野辺地町	○男子団体 ★黒石高校 3位 ★野辺地高校 4位 ○女子団体 ★今別高校 4位 男子個人フルーレ ・川村（野辺地高） 4位 ・相馬 敏幸（黒石高） 6位 男子個人エペ ・川村（野辺地高） 2位 ・村元 徳仁（黒石高） 4位 ・伊藤 孝行（黒石高） 5位 男子個人サーブル ・佐藤 博之（黒石高） 優勝 ・山田 玄太（野辺地高） 3位 女子個人フルーレ ・嶋中美代子（今別高） 3位

昭和63年	福島県：福島商業	<p>男子個人フルーレ ・松尾 圭哉 (田名部高) 優勝 ・八谷 裕幸 (田名部高) 3位</p> <p>男子個人エペ ・磯谷 秀一 (田名部高) 2位 ・川村 賢司 (今別高) 3位</p> <p>男子個人サーブル ・成田 亮 (黒石高) 5位 ・水島 (田名部高) 6位</p> <p>○女子団体 ★今別高校 3位</p>
平成元年	山形県：米沢市	<p>○男子団体 ★今別高校 3位</p> <p>男子個人フルーレ ・磯谷 秀一 (田名部高) 5位</p> <p>男子個人エペ ・平山 匠治 (今別高) 6位</p> <p>男子個人サーブル ・祐川 啓司 (田名部高) 2位 ・成田 亮 (黒石高) 5位</p> <p>○女子団体 ★黒石高校 優勝</p> <p>女子個人フルーレ ・山本 啓子 (黒石高) 2位 ・岩崎千恵利 (今別高) 4位 ・嶋中 美美 (今別高) 6位</p>
平成2年	青森県：むつ市	<p>○男子団体 ★田名部高校 優勝</p> <p>男子個人フルーレ ・祐川 啓司 (田名部高) 優勝 ・佐藤 達大 (田名部高) 4位 ・平山 寛哉 (今別高) 5位</p> <p>男子個人サーブル ・祐川 啓司 (田名部高) 優勝</p>
平成3年	秋田県：聖霊高校	<p>○男子団体 ★今別高校 優勝 ★田名部高校 2位</p> <p>男子個人フルーレ ・平山 寛哉 (今別高) 優勝 ・葛西 和人 (田名部高) ベスト4 ・菊池 祥史 (田名部高) ベスト4</p> <p>男子個人エペ ・小野 幸三 (黒石高) ベスト4</p> <p>女子個人フルーレ ・関 志津香 (今別高) 2位 ・八戸 未夏 (田名部高) ベスト4</p>
平成4年	岩手県：一関市	<p>○男子団体 ★田名部高校 優勝 ★今別高校 4位</p> <p>男子個人フルーレ ・太田 義仁 (今別高) ベスト4</p> <p>男子個人エペ ・坪 俊彦 (田名部高) ベスト4</p>
平成6年	福島県：川俣町	<p>○男子団体 ★田名部高校 3位</p> <p>男子個人フルーレ ・北田 俊 (田名部高) 2位</p> <p>男子個人サーブル ・鳴海 貴大 (田名部高) 4位</p> <p>女子個人フルーレ ・中津 直子 (田名部高) 3位</p>
平成7年	山形県：米沢市	<p>男子個人サーブル ・澤田日出雄 (今別高) 3位</p>
平成8年	青森県：むつ市	<p>男子個人サーブル ・唐川 卓磨 (今別高) 4位</p> <p>○女子団体 ★田名部高校 2位</p> <p>女子個人フルーレ ・山本 寛子 (田名部高) 4位</p> <p>女子個人エペ ・畑中 良子 (田名部高) 4位</p>
平成9年	秋田県：秋田市	<p>○男子団体 ★今別高校 優勝 (唐川・相内・西澤)</p> <p>男子個人フルーレ ・唐川 卓磨 (今別高) 優勝 ・相内 豊 (今別高) 2位 ・西澤 敬幸 (今別高) 5位</p>
平成10年	岩手県：一関市	<p>男子個人フルーレ ・相内 豊 (今別高) 3位</p> <p>○女子団体 ★今別高校 2位</p>
平成11年	宮城県：仙台市	<p>男子個人フルーレ ・阿部 秀嗣 (今別高) 3位</p> <p>男子個人エペ ・戸嶋 愛樹 (今別高) 2位</p> <p>女子個人エペ ・佐藤 由美 (今別高) 2位 ・赤田 由紀 (田名部高) 4位</p>

フェンシング50周年

平成12年	福島県：川俣町	○男子団体 ★今別高校 3位 男子個人フルーレ ・阿部 秀嗣 (今別高) 優勝 ・戸嶋 愛樹 ベスト4 ・菊池 基 (田名部高) ベスト4 ○女子団体 ★田名部高校 3位 女子個人フルーレ ・赤田 由紀 (田名部高) 2位
平成13年	山形県：米沢市	○男子団体 ★今別高校 3位 男子個人フルーレ ・阿部 秀嗣 (今別高) 2位 ・大馬 匡 (今別高) 5位 男子個人サーブル ・阿部 秀嗣 (今別高) 5位 ・大馬 匡 (今別高) 7位
平成14年	青森県：黒石市	男子個人フルーレ ・本間 闘士 (今別高) 3位 男子個人サーブル ・本間 闘士 (今別高) 8位
平成15年	秋田県：秋田市	○男子団体 ★今別高校 優勝 (伊藤・牧野・大馬・梅田) 男子個人フルーレ ・坂本 洋臣 (田名部高) 2位 ・大馬 義明 5位 男子個人エペ ・大里 陽士 (黒石高) 3位 ○女子団体 ★今別高校 優勝 (阿部遥・下川・本間・阿部美) 女子個人エペ ・澤田 和 (戸山高) 2位
平成16年	岩手県：一関市	○男子団体 ★今別高校 2位 男子個人エペ ・澤田昂太郎 (青森高) 優勝 女子個人エペ ・本間絵里佳 (今別高) 3位
平成17年	宮城県：仙台市	男子個人フルーレ ・大馬 義明 4位 男子個人サーブル ・大馬 義明 4位 ○女子団体 ★今別高校 3位 女子個人フルーレ ・阿部 美樹 (今別高) 優勝
平成18年	福島県：川俣町	○男子団体 ★今別高校 3位 男子個人サーブル ・澤田 稔章 (今別高) 2位
平成19年	山形県：米沢市	○男子団体 ★青森北今別校舎 3位 ★黒石高校 3位 男子個人エペ ・浅野 悠人 (田名部高) 5位 ・後藤 清大 (黒石高) 8位 男子個人サーブル ・兵藤 晃 (黒石高) 4位 ・中野 昌太 (田名部高) 7位 ○女子団体 ★田名部高校 3位 女子個人フルーレ ・嶋中 智慧 (青森北高) 5位 ・菊池 翔子 (田名部高) 6位 女子個人エペ ・沼田 彩佳 (青森北今別校舎) 2位 女子個人サーブル ・菊池 翔子 (田名部高) 6位 ・嶋中 智慧 (青森北高) 8位
平成20年	青森県：黒石市	男子個人エペ ・後藤 清大 (黒石高) 3位 ・鳥山 貴之 (田名部高) 5位 男子個人サーブル ・猪ノ口 貴史 (青森北今別校舎) 8位 女子個人フルーレ ・嶋中 智慧 (青森北高) 3位 ・菊池 翔子 (田名部高) 6位 女子個人エペ ・三國 千種 (青森北今別校舎) 2位 女子個人サーブル ・岩谷 友華 (黒石高) 3位 ・嶋中 智慧 (青森北高) 4位
平成21年	秋田県：北秋田市	○男子団体 ★青森北今別校舎 2位 男子個人エペ ・澤田 大樹 (青森北今別校舎) 7位 男子個人サーブル ・猪ノ口 貴史 (青森北今別校舎) 2位 女子個人エペ ・小笠原 愛 (黒石高) 6位 女子個人サーブル ・森山 瞳子 (田名部高) 5位

編 集 後 記

昭和37年8月に青森県フェンシング協会が発足して、平成25年8月に50周年を迎えました。

平成25年に50周年記念式典を開催する予定でしたが、私、事務局の準備不足で平成26年に開催することになりましたことをお詫び申し上げます。

今回、記念誌を作成して、正直なところ大変でした。まず、何から進めたら良いのか…悩んでいたら、東北各県や県内関係者への原稿依頼が遅れてしまい、またしても記念誌の作成期間が短くなり、ただ焦りだけが先行していました。

今回、記念誌を作成している中で感じたことは、昭和52年に開催された『あすなろ国体』から、青森県のフェンシングが大きく飛躍したきっかけだったと思います。

成年男子の団体優勝やインターハイでの今別高校男女優勝、黒石高校の個人優勝など、県内数少ない高校で数々の全国制覇を成し遂げてきたことは誇りに思います。

平成13年・宮城国体では青森県初の少年男子優勝、その年のインターハイと2冠を達成した瞬間が今でも忘れられません。

近年、全国各地でジュニアの育成が盛んに行われ、北京やロンドンオリンピックでメダルを獲得した太田選手や千田選手（宮城県）を目指し、次世代担う選手が増えているなかで、50周年を迎えた県フェンシング協会も、次世代を担う選手の育成や指導者の育成に再度取り組む時期なのではないかと、私自身感じています。

すいません！私の感情が入ってしまいました。

今後、平成35年には60周年、平成45年には…と県協会が歩み続ける中で、次回、どなたが記念誌を作成するかは未定ですが、毎年、資料や写真を整理することも大事かと思いました。

今回記念誌発行にあたり、原稿依頼を心良くお引き受けいただいた皆様と、多方面でご協力頂いた関係者に厚く心よりお礼申し上げます。

記念誌編集及び、記念式典委員の方々お疲れ様でした。また60周年開催の際は、再びお力をお貸し下さい。

(青森県フェンシング協会 事務局 平山寛哉)

